

# は　じ　め　に

ここに『国際交流基金日本語教育紀要』第4号をお届けできることは、私どもの慶びです。

本紀要には、当基金の日本語教育事業に携わる日本語教育専門員・専任講師、客員講師、派遣専門家、職員等が日々の活動の中で取り組んできた問題や課題をまとめ、「研究論文」（研究成果に独創性がある、理論的・実証的論文）、「研究ノート」（教育、教材開発などの実施過程でまとめられた中間研究報告）、「実践報告」（教育、教材開発などの実践の目的、特色、経過、成果などについて紹介、分析した報告）、「報告」（国際交流基金が実施する事業に関する報告や海外の日本語教育関係機関の視察報告等）として執筆したものの中から、編集委員会による厳正かつ公平な審査のもと、計14編を選定し掲載しました。

2007年10月には、当基金が2006年度に実施した「海外日本語教育機関調査」の結果がまとまり、約300万人に迫る勢いで海外での日本語学習者が増加していることが分かりました。この結果を受け、当基金は日本語教育事業のさらなる充実の必要性を認識しています。調査報告書の概要版は当基金ホームページ（[http://www.jpf.go.jp/j/japan\\_j/oversea/survey.html](http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/oversea/survey.html)）に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

本紀要に対する皆様からの忌憚のない御意見、御批判をいただければ幸いです。

2008年（平成20年）3月

国際交流基金